

## 日本人韓国語学習者の話し言葉をいかに評価するか —「わかりやすさ」の評価項目抽出—

崔 文 姫

### 1. はじめに

日本人韓国語学習者（以下、「学習者」と称する）の話し言葉を韓国語母語話者（以下、「母語話者」と称する）はどのように捉え、どのような評価をするのだろうか。とりわけ、母語話者が学習者の話し言葉を聞いて「わかりやすい」「わかりにくい」などと判断した場合、そこにはどのような評価基準が存在するのだろうか。

現在、韓国語教育においては、学習者の意思疎通能力（Communicative Competence）の向上を目標とし、意志疎通を中心とした教育が行なわれている。本研究が注目する学習者の発話（話し言葉）は、言語の4技能「話す・聞く・読む・書く」の中の「話す」能力を問うものである。話すということは、相手に自分の考えや意図などを音声を通じて表現する言語技能で、意志疎通（コミュニケーション）の基本的な手段である。そして、発話者にとっては、自分の言いたいことやメッセージを相手に効率的・効果的に伝達することが重要となる。

韓国語母語話者の中には、日頃、外国人韓国語学習者の発話を聞いて、彼らが何を言っているのか、聞いた発話をどう理解・解釈すればいいのかわからないという経験をしている者も少なくないだろう。普段から韓国語教師として学習者に接している筆者にとっても、学習者の（韓国語の）発話を聞いてわかりにくいと思ったり、理解しにくいと思ったりすることが多々ある。

学習者がわかりやすく話すことは外国語教育における指導項目の1つでもあり、授業では話すことに中心を置いた教室活動も実施している<sup>1</sup>。だが、（日本の）大学で初修外国語として韓国語を教える場合、カリキュラム上、話す能力を伸ばすための時間が十分に取れないのが現状である。さら

1 例えば、筆者の担当する授業では、朗読やペアでの会話練習は言うまでもなく、（家族や故郷、休み期間中の計画などについて）ある程度自由に紹介・発表するなどの活動を行なっている。

に、日本国内の学習者は、授業以外の環境において韓国語を使用する機会がほとんどないこともあり<sup>2</sup>、学習者の話す能力はなかなか伸びない。

そうではあるが、筆者は、少しでも学習者の話す能力を向上させるため、期末課題などの形式を取り、授業内で発表などのタスクを実施することができる<sup>3</sup>。だが、その教室活動に対して評価を行なう際、「わかりやすさ」に関する評価の客観的な基準が示されていないため、学習者の課題の遂行能力をどう評価すべきか悩むことが多い。

以上のことを踏まえると、学習者の口頭による情報伝達の「わかりやすさ」の要因は何か、すなわち、学習者の発話に対して母語話者が「わかりやすい」と判断する評価観点（基準）は何かを明らかにすることが必要であると考えられる。そのため、多数の母語話者を対象に量的調査を行ない、母語話者の評価観点を究明していくことが重要である。また、その量的調査を実施するためには、事前に「わかりやすさ」に関する評価項目を確定しておく必要がある。

そこで、予備調査を行ない本調査（量的調査）用の評価項目を抽出したが、本稿は、その予備調査の詳細とともに調査を通して得られた評価項目について報告するものである。

## 2. 先行研究

外国語学習者の発話とわかりやすさ／わかりにくさとの関係を扱った研究には、日本語学習者を対象にした谷口（1984）、近藤（2004）、野原（2009）などがある。谷口（1984）は、学習者の談話のわかりにくさの一般的要因として「音声による伝達・語彙・構文・話の展開」の4つを挙げており、近藤（2004）は、「発音・言いよどみ・文と文のつながり」の3つをもとに学習者の談話を分析し、そこから談話の分かりにくい要因を導き出している。谷口（1984）の研究は、日本語教師の視点が重視され、近藤（2004）の研究は一般の日本人の視点から行なわれている。

野原（2009）は、日本語教師や一般の日本人の視点を合わせて分析してい

2 崔（2017）でも言及しているとおり、韓流ブームの影響などで、授業外で韓国の音楽（K-POP）やドラマ、映画、テレビ番組などに接している学習者は少なくない。だが、それは単に視聴や鑑賞のレベルであり、韓国語を使用するといったものではないだろう。

3 初級に当たる1年生の授業では、朗読やペアでの会話練習程度しかできないが、2年生の授業（中級相当）では、紹介や発表などの教室活動を実施している。

4 学習者の学習目的の1つに、「韓国語ネイティブの人と円滑にコミュニケーションを取ること」が掲げられることがよくある。学習者が、教室内での教師との関わりだけでなく、教室外で（韓国語教師などの専門家ではない）一般の韓国人と関わりをもちコミュニケーションを行なうことを考え、本研究の対象となる母語話者は色々な背景・属性を持つ人を想定している。

るが、発話の「わかりやすさ」の評価基準に関して、一般の日本人は「内容」と「音声」の2つの要因が影響し、日本語教師は「意味的つながり」「言語使用の適切さ」「音韻的つながり」という3つの要因が影響すると報告している。

韓国語学習者を対象にした研究においては、韓国人が外国人学習者の発話を評価した研究自体が少なく、ましてや、専門家と一般の韓国人との評価の違いを分析するようなものはまだ乏しいと言える。学習者の発話を発音（個別音素・音韻の変化・抑揚・発話速度・ポーズなど）に特化し、その正確さが母語話者の理解しやすさ／理解しにくさに与える影響について言及した研究として全（2007）、㉀（2013・2014）などが挙げられる。本稿が注目する「わかりやすさ／わかりにくさ」を総合的な観点から行なった研究は管見の限り見当たらない。

### 3. 調査概要

「わかりやすさ」の評価項目を抽出するため、本稿では以下の2つの調査を実施した。1つ目は学習者の発話を収集するための調査で、2つ目はその調査から得られた発話データを用いて母語話者に行なった評価の（予備）調査である。ここでは、この2つの調査の詳細について記す。

#### 3.1 学習者の発話収集

##### 3.1.1 発話場面

学習者の発話を収集するため、表1のように2つのタスク<sup>5</sup>を採択した。

1つ目のタスクは、自由発話として、韓国のお薦めの場所を紹介（説明）する場面を選定した。調査に協力してくれた学習者は（後述のとおり）全員一定期間韓国に滞在したことがあるが、調査の前に緊張をほぐすため、日本語と韓国語を交えて韓国に関する雑談をし始め、それから調査に入った。

もう1つのタスクでは、先行研究（野原2009）に倣い、4コマ漫画について学習者にストーリーテリングをしてもらうことにした。4コマ漫画は、（1）「ゲームでしか遊べない少年たち」と（2）「電車の中で騒ぐ子供たち」を描いた2種類を用意した。なお、今回使用した4コマ漫画は英検準1級二次試験面接対策の問題集（旺文社編2011）から選び、英語が書かれている部分を筆者が韓国語に訳したものを利用した。

5 2つとも、韓国語教育現場において、中級レベル以上の学習者の話す能力を評価するためよく用いられるタスクである。

表1 学習者の発話場面

	種類	タスク	指示時間	
			準備	遂行
1	(お薦めの場所の) 紹介	韓国のお薦めの場所を 紹介(説明)する	3～5分	3分程度
2	ストーリーテリング (2種類)	4コマ漫画を見て、ス トーリーを作り(内容 を展開させて)、話す	それぞれ 2分	それぞれ 2分程度

### 3.1.2 調査協力者(学習者)

学習者は、熊本県立大学で初修外国語として韓国語を学んだ学生6名を対象にした。初級学習者の場合は、単語や短い文をつなげることは可能でも、1つのまとまった文章を作るのは難しいと推測されるため、学習者は全員中級レベル以上<sup>6</sup>に限定した。学習者は、(日本の)大学で初修外国語としての韓国語学習(2年間のカリキュラム)を終了し、その後、それぞれ3週間の語学研修あるいは約1年間の交換留学で韓国の語学学校や大学に在籍したことがある。

以下の表2に学習者について示すが、情報は調査時点のものであることを断っておく。

6 レベルは、学習時間とTOPIK (Test of Proficiency in Korea) の取得状況を見て筆者が判断した。一般的には、(専門機関での)学習時間が400時間であれば初級、800時間であれば中級、学習時間が1200時間以上であれば高級(上級)となる。

表2 学習者（被評価者）

学習者	性別	年齢	レベル	学習歴 <sup>7</sup>	TOPIK 取得 <sup>8</sup>
S 1	女	21 歳	上級	2 年 10 ヶ月	5 級
S 2	女	22 歳	上級	2 年 10 ヶ月	5 級
S 3	女	23 歳	上級	3 年	5 級
S 4	女	22 歳	中級	2 年 5 ヶ月	3 級
S 5	女	21 歳	中級	2 年 5 ヶ月	
S 6	女	20 歳	中級	2 年	4 級

### 3.1.3 調査手順

調査は2016年8月から2017年5月にかけて、学習者一人ずつを対象に、熊本県立大学の静かな教室において実施した。

まず、調査に来てくれた学習者の緊張をほぐし、場に慣れてもらうため、韓国での思い出話や韓国語学習などについて日本語と韓国語を交えながら雑談した。しばらく時間を取ったうえで、学習者に調査の目的および手順を日本語で説明した。なお、これ以降も学習者に対する指示は日本語で行なった。

それからすぐに韓国のお薦めの場所について韓国語で紹介（発話）してもらい（タスク1）、それをすべてビデオカメラで収録した<sup>9</sup>。準備（学習者が話す内容を考える時間）には3～5分程度を与え、調査者（筆者）の指示としては、「韓国人や韓国語がわかる日本人に、その韓国のお薦めの場所に行ってみたいと思わせるように話してほしい」とお願いした。学習者はメモは取らず、ビデオカメラに向かって、頭で考えながらまとめて自由に話す形で発話を行なった。

ビデオの収録後、少し休憩をはさみ、続けてストーリーテリング（タスク

7 すべての学習者において、学習歴のうち2年は、熊本県立大学で初修外国語として韓国語を履修した期間である。その詳細は、1年間は90分の授業を週2コマ、1年間は90分の授業を週1コマ受けている。それ以外の学習時間は、それらの2年間のあとに韓国国内の語学学校もしくは大学で韓国語を学んだ期間を意味する。学習者S6は、大学で韓国語を学んでいる2年間の中の休暇期間を利用して韓国国内の語学学校で3週間学習した。

8 学習者S5は調査時点ではTOPIKを取得していなかった。だが、学習背景が学習者S4とほぼ同様で、調査時点で韓国の大学に在籍しており、客観的根拠となるTOPIKの取得はないものの韓国語能力は「中級」として遜色ないと判断した。なお、該当学生は、調査の数か月後に実施されたTOPIKの受験を韓国で受け、6級（上級）に合格している。

9 本稿の母語話者調査（3.2節）では、学習者の発話を音声のみ提示する方法を取っているが、映像による提示方法も今後の研究課題としているため、収録という形を取った。

2) を実施した。ストーリーテリングの場面は2種類あるが、その中でも絵の中に文字が多い4コマ漫画((1)「ゲームでしか遊べない少年たち」)を先に用い、次に別の4コマ漫画((2)「電車の中で騒ぐ子供たち」)を用いて話をしてもらった。それぞれ準備に与えた時間は2分で、ここでも学習者はメモを取らず、自分の言葉で話を組み立てながら発話を行なった。ただ、発話の開始は予め調査者のほうで用意した文章カード<sup>10</sup>を学習者に読ませたため、開始部分の内容(最初の文)は全員同じということになる。なお、学習者のストーリーテリング発話はすべてICレコーダーで録音した。加えて、2種類の4コマ漫画のうち、どちらが話しやすかったのかについて最後に学習者に確認した。

2つのタスクを実施した後、同意書(ビデオ収録や録音の許可<sup>11</sup>、得られたデータを研究目的で公開することなど)と学習者に関する情報(韓国語学習歴やTOPIK取得状況など)を書いてもらい、調査は終了した。

### 3.1.4 評価調査用の発話(評価材料)選定

学習者の発話を収集した結果、録音状態が良くないものや、途中で話が長く止まったりしてデータとしての形を成していないものが存在したため、それらは評価材料から排除した。

まず、タスク1(お薦めの場所の紹介)では、学習者S5の発話の開始部分が録音されておらず、タスク2(ストーリーテリング)では、学習者S6が、2種類の漫画ともに話をうまく作れず長い休止があり、声小さすぎるなどの問題が存在した。そのため、この2人の学習者の発話は評価材料から除くことにした。

加えて、タスク2では2種類のストーリーテリングを実施したが、そのうち(1)「ゲームでしか遊べない少年たち」の4コマ漫画を用いた発話を評価材料として採用することにした。その理由は、ほとんどの学習者が、(1)を用いた発話が(2)「電車の中で騒ぐ子供たち」を用いた発話より、活発に(スムーズに)話を展開させていると感じたためである。また、調査終了後に学習者より、(2)のものは「絵の中に文字が少ないから」「ヒントとなるキーワードが1番目のものに比べると少ないから」「なぜか分からないけど」やりにくかった、「普段ほとんど電車に乗らないから状況を想像しにくかった」との意見があったため、(1)が適切であると判断する。

10 4コマ漫画(旺文社編2011)の解説内容から文を引用し、韓国語に訳してカードに記した。

11 発話データを収集する前にもビデオでの撮影やICレコーダーでの録音について口頭で許可を求めた。

参考までに、以下の表3に、学習者の実際の発話（母語話者の評価用）時間を示す。

表3 学習者の発話時間<sup>12</sup>

タスク1（お薦めの場所の紹介）		タスク2（ストーリーテリング）	
学習者	発話時間	学習者	発話時間
S 1	2分57秒	S 1	1分58秒
S 2	2分22秒	S 2	1分59秒
S 3	2分12秒	S 3	1分53秒
S 4	3分55秒	S 4	1分25秒
S 6	2分38秒	S 5	1分47秒

### 3.2 母語話者による評価調査

本節では、学習者の発話データ（音声）を用い、母語話者が学習者の発話に対して「わかりやすい」と判断するときは何に注目しているのか、その判断基準を探るため行なった予備調査について述べる。この調査の目的は、本調査（量的調査）用の「わかりやすさ」に関する評価項目を抽出することおよび本調査時に用いる学習者の発話場面を確定することにある。

#### 3.2.1 探索的な評価方法

すでに述べたように、韓国語教育においては「わかりやすさ」に関する評価の判断基準が明確に示されていない。

現在の韓国語教育における話し方（話し言葉）の評価は、一般的に、Canale & Swain (1980) のコミュニケーション能力からなる4つ（文法能力・談話能力・方略能力・社会言語能力）のカテゴリーが基礎となるものが多い<sup>13</sup>。さらに、その下位に、例えば「文法能力」なら「正確な発音や文法、自然な抑揚、適切な語彙の使用能力」などの項目（要素）が並ぶ<sup>14</sup>。

韓国語学習者の話し方に対する評価の構成要素について、シ (2017) では、「発音・語彙力・流暢性・正確性・内容構成・相互作用の態度・談話運用・戦略・適切性・全体の印象」の10項目が提示されている。この中から

12 発話文数などを含む学習者の発話の細かい分析については別稿に譲る。

13 これに「課題遂行能力」が加わることもある（召 2016 など）。このコミュニケーション能力を基本にし、各教育機関の教育課程と教材、遂行課題の種類（例えば、ロールプレイ・発表・討論・インタビュー）などを考慮し、評価の構成要素とその下位項目を決めている（부산외국어대학교 한국어문화교육연구소 2010）。

14 詳細については강 외 (2006:167) を参照されたい。

評価者や教育機関などの目的により取捨選択して評価基準を採択する必要があると述べられている。

以上のような韓国語教育における話し言葉の評価項目を応用して、かつ、前述の日本語学習者を対象にした先行研究などを参照して、「わかりやすさ」の概念を構成する評価要素を設定することは可能かもしれない。だが、本研究では、予め評価項目を作ることはせず、野原（2009・2014）などに倣い、探索的な方法を採用する。すなわち、韓国語教師や一般の韓国人を含む母語話者が学習者の発話を聞いて、どの点をわかりやすく感じたのか、もしくはわかりにくく感じたのかなどについて自由に発言（記入）してもらい、そこから共通する基準を導き出す方法を取る。すでにある評価項目を使うのではなく、探索的に探ることで新たな知見を見つけることができ、また、これまで示されていない、韓国語学習者の発話に対する「わかりやすさ」の評価観点を探ることもできると考えるからである。そうした考え方に基づいて行なった調査（本調査のための予備調査）について以下で示す。

### 3.2.2 調査協力者（母語話者）

予備調査に参加した母語話者は10名で、その内訳は、教育歴の異なる韓国語教師4名（ベテラン韓国語教師3名・新任韓国語教師1名）・大学教員2名<sup>15</sup>・大学生（日本への交換留学生）4名である。母語話者は全員、現在日本に居住しており、普段日本人に接している<sup>16</sup>。

次の表4に、母語話者の背景を示す。

---

15 この2名（N5とN6）はそれぞれボランティアと個人レッスンの経験はあるが、専門家として韓国語を教えていたわけではない。

16 普段日本人に接している母語話者と全く接しない母語話者とは、評価基準が異なる可能性も考えられるが、それについては本稿では触れず、今後の研究課題としたい。なお、今回の調査協力者のうち4名（大学生）は来日してまだまもなく（4カ月程度）、しかも1人は日本語があまりできない学生であった。



表4 母語話者（評価者）

母語話者	性別	年代	職業	韓国語教育歴
N 1	女	40代	韓国語教師	20年
N 2	女	40代	韓国語教師	10年
N 3	男	40代	韓国語教師	18年
N 4	女	20代	韓国語教師	1年
N 5	男	40代	大学教員	8年（ボランティア）
N 6	女	30代	大学教員	1年（個人レッスン）
N 7	女	20代	大学生	なし
N 8	女	20代	大学生	なし
N 9	女	20代	大学生	なし
N 10	女	20代	大学生	なし

### 3.2.3 調査手順

評価調査は2017年7月から8月まで、1名を対象とする単独の個人調査と2～4名を一度に対象とする集団調査を並行して行なった。学習者の発話データをタブレットに入れ、外部スピーカーを通して母語話者に聞いてもらった<sup>17</sup>。調査は静かな教室において実施し、機器の操作および音量の調節などは筆者が行なった。

手順は、母語話者に調査の目的および手順を説明してから、まず、学習者のストーリーテリング発話を聞いてもらった<sup>18</sup>。発話を聞いた後、予め用意してある調査用紙に「全体的なわかりやすさ」を5段階尺度（①とてもわかりにくい ②ややわかりにくい ③普通 ④ややわかりやすい ⑤とてもわかりやすい）で評定<sup>19</sup>し、そう判断した理由や発話を聞いて気になった点などについて自由に記述してもらった。ランダムに学習者5名（S1～S5）のストーリーテリングを評価してもらった後、各自の結果をもとに、なぜそのような評価をしたかについてコメントをしてもらった<sup>20</sup>。筆者と母語話者とのやり

17 母語話者の予備調査は数回にわたって実施したが、そのたびに学習者の発話は順番を変えて行なった。

18 発話の開始（最初の文）が全員同じであることは事前に伝えておいた。

19 本稿の目的は「わかりやすさ」に関する評価項目を抽出することであり、学習者一人ひとりに対する評価を目的としないため、ここで得られた評定値の結果については省略する。

20 筆者のリードで意見交換をしながら、判断理由について話し合った。すでに調査用紙に詳細に書かれてある内容については確認程度にとどめ、それ以外のことについてなるべく詳しく話しても

とりはすべて IC レコーダーで録音した。なお、母語話者には、調査が終了するまで、韓国語運用能力などの学習者情報については一切伝えていない。

次に、お薦めの場所の紹介に関する発話を用いて、上記と同様の手順で、学習者 5 名 (S 1 ~ S 4、S 6) の発話について評価をしてもらった。さらに、本研究が目的とする「わかりやすさ」という概念から評価を行なう際、2 つの発話場面 (ストーリーテリングとお薦めの場所の紹介) のうち、どちらの発話が評価しやすいのか (適切であるのか) についても意見を伺った<sup>21</sup>。

最後に、承諾書および母語話者の情報 (韓国語教育歴など) を記入してもらい、調査は終了した。調査の所要時間はそれぞれ開始から終了まで約 2 時間であった。

### 3.2.4 分析

評価調査の結果得られたデータ (調査用紙の記述内容およびコメント) をもとに、KJ 法<sup>22</sup>による分析を行なった。調査用紙にある評価の判断理由の記述内容とともに、意見交換で得られたコメントの録音データを基に必要な箇所を文字起こしし、両方のデータの内容からグループ化を試みた。似ていると思われる内容を集め、わかりやすさの評価項目を分類していった。なお、分類はすべて筆者の責任で行なっている。

予備調査の結果得られた「わかりやすさ」に関する評価項目を次節で示す。

## 4. 「わかりやすさ」に関する評価項目

学習者の発話のわかりやすさに関する母語話者の評価観点を探るため、予備調査での記述内容とコメントの内容を中心に分析した結果、次の 32 の評価項目が抽出された<sup>23</sup>。

らった。

21 今後の量的調査においては、時間やその他の制約を考慮すると、1 つの場面を選んで実施することが望ましいと考えられたためである。

22 いわゆる「発想法」の一つである。アイデアや意見、または各種の調査現場から収集された雑多な情報を 1 枚ずつ小さなカードに書き込み、それらのカードの中から類似するもの同士を 2、3 枚ずつ集めてグループ化し、それらを小グループから中・大グループへと組み立てて図解する。こうした作業の中から、テーマの解決に役立つヒントやひらめきを生み出していこうとするものである (川喜田 1967 を参照)。

23 これらの評価項目に基づき、本調査 (量的調査) を実施する予定だが、そのためには項目の数および表現内容について慎重に検討・整理をする必要がある。例えば、現在はポジティブな内容 (表現) とネガティブな内容が混在しているが、実際の調査においては表現を統一したほうが望ましい

以下に、本稿の調査で得られた「わかりやすさ／わかりにくさ」に関する評価項目を示す<sup>24</sup>。

- (1) 발음이 좋고 자연스럽다.  
発音が良くて自然である。
- (2) 억양이 적절하고 자연스럽다.  
抑揚が適切で自然である。
- (3) 일본어같은 발음이 많다.  
日本語っぽい<sup>25</sup>発音が多い。
- (4) 일본인 특유의 억양으로 말한다.  
日本人特有<sup>26</sup>の抑揚で話す。
- (5) 거센소리 발음이 많다.  
強い音の発音が多い。
- (6) 단어나 어휘 사용 (선택) 이 적절하다.  
単語および語彙の使用（選択）が適切である。
- (7) 단어나 어휘 레벨이 높다.  
単語および語彙のレベルが高い。
- (8) 어휘력과 표현력이 풍부하다.  
単語力と表現力が豊富である。
- (9) 조사 사용이 적절하고 정확하다.  
助詞の使用が適切で正確である。
- (10) 문법 사용이 정확하다.  
文法の使用が正確である。
- (11) 쉽고 평이한 문법을 구사한다.  
簡単で平易な文法を駆使している。
- (12) 문장과 문장 연결이 자연스럽다  
文と文のつながりが自然である。

と考える。

24 母語話者調査はすべて韓国語で行なったため、得られたコメントなどもすべて韓国語である。今後の量的調査においても、母語話者を対象に韓国語で実施する予定なので、ここではあえて評価項目を韓国語で示し、筆者による日本語訳を加えた。

25 本稿の調査では、日本に居住している母語話者を対象にしたため、日本語がわかる人にしかできないようなコメントが多数寄せられた。だが、今後の本調査では韓国国内にいる母語話者を主な対象とするため、この「日本語」という部分を「外国語」に変えるなどの工夫が必要である。

26 注25と同じ理由で、日本人（の発音）についてわかる人にしかできないようなコメントが多数得られた。だが、本項目も、今後の調査のためには、「日本人」という部分を「外国人」に変えるなどの工夫をしなければならない。

- (13) 단어와 단어 연결이 자연스럽다.  
単語と単語のつながりが自然である。
- (14) 쉽고 간단한 문장으로 말한다.  
易しくて簡単な文で話す。
- (15) 접속사 (접속어) 사용이 적절하다.  
接続詞 (接続語) の使用が適切である。
- (16) 발화 속도가 적절하다.  
発話の速度が適切である。
- (17) 발화 속도가 빠르다.  
発話の速度が速い。
- (18) 말하는 템포 조절이 자연스럽다.  
話すテンポの調節が自然である。
- (19) 듣기 편한 (좋은) 목소리다.  
聞きやすい声である。
- (20) 목소리가 크다.  
声が大きい。
- (21) 목소리 톤 조절이 적절하다.  
声のトーンの調節が適切である。
- (22) 이야기의 구성/전개가 좋아서 내용 파악이 잘된다.  
話の構成 (展開) が良くて内容を把握しやすい。
- (23) 이야기를 단순하게 나열해서 말한다.  
話を単純に羅列して言うだけである。
- (24) 표현이 자연스럽고 정확하다.  
表現が自然で正確である。
- (25) 현재 과거 등의 시제 표현이 적절하다.  
現在・過去などの時制表現が適切である。
- (26) 간접화법 표현이 적절하다.  
間接話法の表現が適切である。
- (27) 연체형 표현이 적절하다.  
連体形の表現が適切である。
- (28) 단어와 단어, 문장과 문장 사이의 끊어 말하기가 적절하다.  
単語と単語、文と文の間のポーズの置き方が適切である。
- (29) 적극적이고 자신감있게 말을 한다.  
積極的かつ自信のある話し方をしている。
- (30) 막힘이나 망설임없이 유창하게 말을 한다.  
話が止まったり迷うことなく、流暢に話す。

- (31) 열심히 문장을 만들려고 하는 자세가 보인다.  
一生懸命に文章を作ろうとする姿勢が見える。
- (32) 구어체 (회화체) 적인 말투를 사용한다.  
口語的な話し方 (会話体) をしている。

上記の評価項目とは別に、「わかりやすさ」評価のための学習者の発話は「ストーリーテリング」で収集したものが適切であることが判明した。今回の調査では2つの発話場面(表1参照)を用いて評価を行なったが、どちらの場面が「わかりやすさ」評価をするうえで判断しやすいか(適切か)母語話者に聞いてみた。その結果、母語話者10名のうち8名がストーリーテリングを選んだ。その理由として、ストーリーテリングは「絵が提示されその中で限定された文を作るので」、「内容が単純で簡単だから」、「みんな同じ条件で話すから」、「決まった絵を見て話すので出てくる文法も大体同じだから」、「大体同じ内容を話すから」、「聞いているうちにパターン化してくるので」などが挙げられた。一方、お薦めの場所の発話については、評価がしにくい理由として、「決まった場所ではなく自由に選んでいるから」、「場所とかが同じ条件で話しているわけではないから」、「話す人の個性や経験が反映されているから」、「評価者の経験<sup>27</sup>によって判断が異なると思うから」、「学生が一から全部考えて話すため自分の知っている語彙や文法だけで話を進められるから」判断しにくい、公正な判断はできないというコメントが挙げられた。さらに、ストーリーテリングはお薦めの場所の発話よりも「発話時間が短いから集中しやすい」という意見が聞かれた。他方、お薦めの場所の発話は「聞くのにとっても集中力が必要で大変」との意見が寄せられた。こうした意見は、筆者の見解や予想と概ね一致するものであったため、今後の「わかりやすさ」に関する評価研究においては、学習者の発話を「ストーリーテリング」場面に(便宜的に)絞ることが妥当であると判断する。

## 5. おわりに

本稿は、韓国語運用能力が中級レベル以上の学習者6名の発話を用いて、母語話者10名による評価調査を通し、母語話者が学習者の発話(音声データ)の何に注目して「わかりやすい」と判断するのかについて調査を行なった。

韓国語教育に関する研究においては、予め評価者(研究者)が評価項目を

27 「紹介された場所に行ったことがあるかないか」「その場所を知っているかないか」などが評価に関係しうる、つまり、「その経験が内容のわかりやすさにプラスとして作用する」とのことであった。

選定し、それに基づいて学習者の遂行能力を評価するものが多い。だが、すでに述べたとおり「わかりやすさ」という観点からの客観的な基準は示されていない。また、既存の先行研究などから評価項目を選定すると、調査者にバイアスがかかってしまう恐れもあったため、本稿では探索的な方法を取り入れて評価項目を改めて抽出した。

本稿の調査により、研究目的である「わかりやすさ」に関する評価項目が32個抽出された。加えて、「わかりやすさ」評価のための学習者の発話を「ストーリーテリング」場面に絞ることができた。

今後は、本稿の成果をもとに、多数の母語話者を対象に評価調査（量的調査）を実施する予定である。そこから得られるデータを計量的に分析・検証することで、本稿で抽出された評価項目をカテゴリー化し、学習者の発話の「わかりやすさ」に関する母語話者の評価観点（基準）を明らかにしていきたい。

#### 【付記】

発話データを提供してくれた韓国語学習者のみなさま、また予備調査で多くのコメントや情報をいただいた母語話者の方々に心より御礼を申し上げます。

なお、本研究は、JSPS 科学研究費「日本人韓国語学習者の話し言葉に対する韓国語人評価の研究」（基盤研究（C）17K03014）の助成を受けています。

#### 【主な参考文献】

- 旺文社 編（2011）『14日のできる！英検準1級二次試験・面接完全予想問題』旺文社
- 川喜田二郎（1967）『発想法』中央公論社
- 近藤純子（2004）「日本語学習者のあらすじの談話：わかりやすさ、わかりにくさの要因に関する調査と分析」『世界の日本語教育』14, 53-74.
- 谷口すみ子（1984）「談話のわかりにくさの要因とその改善方法案」『アメリカ・カナダ11大学連合日本研究センター紀要』7, 45-63.
- 崔文姫（2017）「韓国語成績上位者の学習ビリーフ」『熊本県立大学文学部紀要』23, 23-44.
- 野原ゆかり（2009）「発話の『分かりやすさ』を判断する要因：一般日本人と母語話者日本語教師との比較を通して」『人間文化創生科学論叢』11, 165-174.
- \_\_\_\_\_（2014）『日本語非母語話者の話し言葉に対する母語話者評価の研究－日本語教育における評価のあり方を問い直す－』風間書房
- Canale, M. and Swain, M. (1980) Theoretical Bases of Communicative Approaches of Second

Language Teaching and Testing. *Applied Linguistics*, 1, 1-47.

<韓国語で書かれた文献>

강 승혜 외 (2006) 『한국어 평가론』 태학사

김 상경 (2016) 『한국어 학습자의 말하기 숙달도 평가』 신구문화사

부산외국어대학교 한국어문화교육연구소 (2010) 『한국어 성취도 평가의 실제: 말하기·쓰기 편』 한국문화사

손 세모돌 (2007) 「성인화자의 말하기 평가 방법: 설명능력 평가 방법」 『화법연구』 11, 67-108.

이 향 (2013) 「한국어 말하기 평가의 발음 영역 채점에서의 채점자 특성에 따른 채점 경향 연구 - 한국어 교육 경험과 전공을 중심으로 -」 『외국어로서의 한국어교육』 39, 213-246.

\_\_\_\_\_ (2014) 「한국어 학습자의 발화에 대한 한국어 교사와 비교사 원어민 간의 평가 차이 연구」 『한국어교육』 25, 163-188.

지 현숙 (2017) 『한국어 평가론』 한글파크